

大きな大きな意味をもつできごと

「独りごちだけどさあ……昨日入学式があったんだよね。」
三年主任のY教諭のこのつぶやきだけで、生徒たちは気付きました。背中を押されるどころか、そっと触られただけで、察して動きました。年度初めから、大きな大きな意味をもつできごとが生まれ、私は大きな感動を覚えました。Y教諭のひとりごとを聞いたあなただったら、何を察しますか。

昨日、入学式が終わってから、手が空いた職員で時間の許す限り後片付けをしました。三年生徒総出で準備を行っただけに、職員が少ない人数では片づけきれませんでした。厄介なのは体育館フロアに敷いたシートです。一枚巻くのには手間と時間がかかる上に、フロア一面に敷かれています。生徒たちの力を借りなければ片づけきれない量です。

こういう場合、これまでだったら、登校してきた生徒に教師が声をかけ、片づけを手伝う生徒を募り、片づけを指示していただきました。それはそれで、協力してくれた生徒を認める材料にはなりません。しかし、それでは物足りません。指示を積極的に受け止めたという「自主性」止まりです。そこからさらにレベルアップすることを、北中では求めたいと私は思います。

Y教諭の独り言を耳にした生徒たちは、生徒会執行部や委員長、級長会のメンバーというようになり、リーダー的な立場の生徒ではありません。いつもの時間にいつものように登校してきたし、してきた生徒たちです。しかし、気付いた自分たちから具体的な行動に出て、放送を通して生徒に片づけを呼びかけました。

「一緒に片づけをしませんか。」

その放送を聞いて、すでに登校を完了させていた生徒が学年関係なく男子も女子も集まりました。集めて指示を出すまでもなく、生徒たちはシートの片づけに取り組みました。そして、シートはあっという間に片付いてしまいました。

このことには、大きな意味をもつ二つの事実が入っています。一つは、Y教諭の独りごちとは、確かに気付くきっかけになりましたが、「入学式」という言葉だけで気付く、やるべきことを見つけたのは生徒だということです。「主体性」の「自分で課題を見つけ」の部分がまさにこれにあたります。

そして、二つ目は、見つけた生徒が、放送を通して自らの声で片付けに参加する生徒を募ったということです。「主体性」の「自分で解決策を見つけ判断し、自分の意思で実践する」にあたります。

「主体性」はリーダーと呼ばれる人物だけが身に付けられ、よいというものではありません。全員が身に付け、学校生活や家庭生活で発揮すべきです。もちろん、勉強にもね！

さあ、次はどんな「主体性」と出会えるかな。楽しみですよ！

(四月八日 記)